【240】

氏　名（本籍）	小出（こいで）れい子（こ）（東　京　都）
学位の種類	博　　士（医　　学）
学位記番号	博　甲　第　2680　号
学位授与年月日	平成13年3月23日
学位授与の要件	学位規則第4条第1項該当
審査研究科	医学研究科
学位論文題目	Schizophren:cs' Body images : What Are They? （精神分裂病者の身体像に関する一考察）

主　査	筑波大学教授	医学博士	庄　司　進　一
副　査	筑波大学教授	博士（医学）	紙　屋　克　子
副　査	筑波大学助教授	医学博士	鈴　木　利　人
副　査	筑波大学講師	医学博士	松　崎　一　葉

論文の内容の要旨

（目的）

精神分裂病の身体像の異常を，精神症状の結果として生じるものか，抗精神病薬の影響として生じるものか，精神分裂病に特有な身体像の異常は何か，などの問題を解くために研究が計画された。

（対象と方法）

慢性精神分裂病患者83名（研究3，5では93名，研究6は4名，研究7は76名），急性精神分裂病患者22名（研究7のみ），不安障害患者43名（研究4のみ，研究7では30名），健常者177名（研究2～5のみ，研究7では28名）を対象とした。診断にはDSM－Ⅳの基準を用いた。Body Image Questionnaire（BIQ）を用いて身体像の異常を評定した。分裂病患者には半構造化面接を行い，陽性症状（Scale for Assessment of Positive Symptoms），陰性症状（Scale for Assessment of Negative Symptoms），総合的症状（Brief Psychiatric Rating Scale），洞察（Schedule for Assessment of Insight）を評定，ロールシャッハテストが施行され，抑鬱（Self-reting Depression Scale）が評定された。

（結果）

研究1では精神分裂病患者の身体像の異常についての広範な文献的評論がなされている。研究2では，慢性精神分裂病患者の身体像を健常者のそれと比較し，因子分析し，6因子が抽出された。これらの因子と，症状，洞察，抗精神病薬投与量には関連が見られなかった。研究3では，症状と洞察の下位尺度に関連するいくつかの異常な身体像の因子が検出されたが，各尺度総得点との関連は見られず，総じて，身体像の異常と症状，洞察との関連は希薄であった。さらにこれらの研究で抽出された異常な身体像の側面は，身体の機能のイメージを示す項目を多く含むという特徴を示した。研究4では，分裂病群と非分裂病群における身体像下位尺度の統計的有意差は，身体の機能的イメージの尺度に明確に示され，身体の形態のイメージ尺度には有意差が見られなかった。研究5では，身体像の5因子に分裂病抑鬱群と分裂病非抑鬱群の因子得点の群間差が見られたが，このうち3因子の群間差は，健常抑鬱群と健常非抑鬱群の間には見られなかった。研究6では，ロールシャッハテストでの「肉塊」知覚を示した慢性精神分裂病患者4症例の症例報告である。研究7では，この「肉塊」知覚を慢性および急

性精神分裂病患者，不安障害患者，健常者で調査し，精神分裂病患者に特異的であることを見い出した。

（考察）

身体像に関する調査の因子分析の結果から，精神分裂病患者の身体像には，健常者と異なる側面があることを示した。それらは精神症状とも，投薬量とも相関しないことを示した。それらは，主として身体の機能に関するイメージであり，形態に関するイメージは損なわれていないことが示された。また，精神分裂病に頻出するロールシャッハにおける「肉塊」知覚の発見は，動けない状態への予感や不安を示唆する点で，身体機能に関するイメージの異常と一貫している。身体像の異常と抑鬱との関連から，身体像の異常に対する薬物治療の可能性が考えられる。

審査の結果の要旨

精神分裂病患者の身体像の異常についての研究で，身体像の異常が見られること，それは機能的イメージの異常であること，抑鬱との関連が示唆されること，「肉塊」知覚という特異性も感受性も共に高いロールシャッハテスト上の所見の発見，と新知見を含むレベルの高い研究である。

よって，著者は博士（医学）の学位を受けるに十分な資格を有するものと認める。